専門研修講座　発達障がいの教育Ⅱ

「発達障がいのある児童生徒のライフステージを考える」

日時	平成29年8月7日（月）	受講者	28名
目的	通常の学級における発達障がいのある児童生徒への配慮や、一人一人のライフステージについての研修を行い、指導力の向上を図る。		

講　義 1　「特別支援教育における最新の動向
～障害者差別解消法の施行を踏まえて～」　特別支援教育センター
主任指導主事　五十嵐　登美

講義2・演習　「発達障がいのある児童生徒の
合理的配慮を考える」　特別支援教育センター
指導主事　遠藤　薫

講　義 3　「発達障がいのある児童生徒のライフステージ」　発達障がい者支援センター
センター長　増子　博文　氏
医　長　伊瀬　陽子　氏
心理嘱託員　成田由芙子　氏
就労支援嘱託員　小林ゆかり　氏

＜講義1＞

「特別支援教育における最新の動向
～障害者差別解消法の施行を踏まえて～」

はじめに、受講者が感じているライフステージの課題について考えていただき、参加者で共有しました。その課題と関連させながら、切れ目のない支援について考えることができるように特別支援教育の動向、障害者差別解消法、発達障害者支援法等について説明を行いました。

＜講義2・演習＞

「発達障がいのある児童生徒の合理的配慮を考える」

合理的配慮について、内容や関係する法令などを説明し、作成に当たっての配慮や流れについても具体的に確認していきました。

演習では、受講者が担当するお子さんの合理的配慮を3観点11項目で整理して、支援メモに支援内容を記入しました。さらに、合理的配慮を行っていくうえで、個人への配慮だけでなく周囲の理解をどう深めていくかが重要になってくることを確認しました。

＜講義3＞　「発達障がいのある児童生徒のライフステージ」

発達障がい者支援センターの方々から、具体的な症例を挙げて各ライフステージにおける課題や支援について御講義をいただきました。医長の伊瀬陽子氏からは、幼児期、学童期における支援の在り方について、学校と医療機関が連携して支援にあたった症例を挙げて説明いただきました。センター長の増子博文氏からは、中学校、高等学校における発達障がいのある生徒の課題や支援について、薬物療法やネットやゲーム依存などの症例を挙げて説明いただきました。心理嘱託員の成田由芙子氏、就労支援嘱託員の小林ゆかり氏からは、発達障がいのある方の就労支援について説明いただきました。それぞれのライフステージを意識した支援の在り方について学ぶことができました。

受講者の感想

○小学校のことまでしか考えられませんでしたが、子どもたちのこれから先のことまで考えることができるようになりました。（小学校）

○個人で収集するにはかなり時間を要する情報を、系統的に提供していただきました。（中学校）

○「共生社会」「学びの場の連続性」などの最新の動向や合理的配慮について学ぶことができました。（高等学校）